

【ニュージーランド短期語学留学】

ニュージーランドでの短期語学留学

高橋 一輝（東北公益文科大学公益学部3年）

私がこの留学に参加した最大の理由は、アルバイトをしておらず時間を持て余しており、それによって怠惰な生活を送るならば、お金を掛けてでも留学に参加し充実した春休みにしたいと考えたからだ。また、参加したきっかけになったものは、昨年度に受講したトップセミナーである。その講義では主に山形を拠点に活躍されている方にお越しいただき、自身のキャリアを述べられたが、講義の担当になっていた高橋先生を始め、ほとんどの方が外国での経験について語られた。私自身も、海外に行き異文化に触れ、本物を五感で感じることは大切だと考えるようになった。アルバイトをしていないこと、トップセミナーを受講していたことが留学参加を決意させた。

ホームステイ

ホストファミリーと会うまでは、金髪碧眼の家族を想像していたが、私のホストファミリーはフィリピン系であった。父のマイケルはニュージーランドでは仕事をしておらず、毎日家事をしていた。母のジャネットは看護師をしているため不規則なライフスタイルを送っていた。2人とも28歳と若かったため特に気負いすることなく接することができた。事前情報では、4歳のルイズという少女がいたが、フィリピンで休暇を取っていたため会うことができなかった。代わりに居候しているインド人のディティがいた。

私の家のルールについてだが、室内は土足厳禁でスリッパをはいていた。シャワーは15分以内で済ませれば良く、いつ浴びてもよかった。洗濯は3~4日に1回のペースだった。私は朝食を摂っていなかったがコーヒーを毎日出してもらえた。昼食は他のホストファミリーと比較すると手抜き感が否めなかったが、夕食は味も質もレベルが高く全体的に見て恵まれた家庭だと思える。

しかし困ったこともあった。私の家庭にはティッシュが存在してなかったので現地調達しなければならなかった。また、ごみ箱もなかったので、レジ袋を利用していた。そして何より困ったことが、暇な時間が多かったことだ。夕食後、私の家族はたいてい自室でルイズとスカイプをしていたので私は1人であることが多かった。お気に入りの洋画を持っていけば暇つぶしになり家族と関わるきっかけになったと思う。

お土産としてお茶漬やレトルトのカレーを持って行ったが、マイケルとしては日清のカップラーメンや焼酎が飲みたかったようだった。形として残るものも持って行ったが、彼らにとって家族に受け入れた初めての留学生が私だったらしくかなり喜ばれた。

学校生活

私のクラスは、午前中は公益生が3人で午後は7人だったので特に緊張することなく授業を受けられた。思ったより日本人の留学生が多く、日本人以外では韓国人が多かった。授業は毎回中身が濃く疲れたが、授業を通して友達ができたことを考えると授業から様々なものを授かったと言える。

ワイカト大学は公益大学と比較するとはるかに大きく、特に50mプールがあることに衝撃を受けた。プールは\$2で利用できたため、水着を持っていけばよかったと悔やまれた。体育館もあり、バスケットボールやバドミントンができるので運動できる服装や内履きがあると便利だった。

生活全般

私は、移動手段としてバスを利用した。1回分の乗車料は\$2.40なので3週間利用するとそこそこの額になった。ハミルトン市内には大きなショッピングモールがいくつかあり友達とショッピングを楽しめるが、オークランド市には日本語を使える店員が勤務していてショッピングがしやすく、幅広いジャンルの店があり品揃えも豊富なので、私の意見としてはオークランドでお土産などを買うことをおすすめする。

ニュージーランドは時期的には夏だが朝と夜中は15℃くらいまで気温が下がるので服装には気を付けたほうがよいだろう。

ソウル

私はインターンシップをしなかったため、野口君と2人で帰国することになった。仁川空港に到着してから早速ソウル行のバスのチケットを買ったが、買ってから10分以内に乗車しなければならず、そのことは知らされなかったため非常に大変だった。ソウル2日目は、午前中は完全に自由時間だったため、光化門や景福宮を訪れた。日本で言うところの寺院みたいなどころだった。過去にこの地を日本が占領していたようで光化門も景福宮も燃やされたらしい。光化門の前には大きな道路があり、戦争になるとその道路は滑走路として機能することも知った。東京とソウルは似ているように思えるが、根本的なところでは大きな違いがあるのではないか。このようなことは現地に行くことでより主観的な視点で考えられ、色々考えさせられた。

終わりに

私はクレジットカードをメインに買い物していたが、ある日突然カードが止まってしまった。原因は磁気によるものだった。ある程度お土産を買っていたので助かったが、留学を考えている方には十分注意してほしい。ホームステイ先や学校ではWi-Fiを利用できるので、日本にいるうちにLINEやFacebookのアカウントを作っておくと同じ学校の人だけでなく、留学先で知り合った友人とも連絡のやり取りができる。

私は留学に向けて特に勉強をしなかったが、最低限の日常会話だけは頭に詰め込んだ。英会話といっても単語だけで会話ができたため、私としては日常会話、発音、聞き取りの3点さえ意識すれば大丈夫だと思う。留学中に、ジャネットの友達が誕生日だったのでホームパーティーをした。ジャネットの友達の子供は6歳で英語の勉強を始めたのは去年の7月からだそうだ。たった数か月で私よりはるかに流暢に英語を使っていた。6歳の子供でも母国語でない英語を学び、2ヵ国語を使えているので、留学を考えている人には頑張ってもらいたい。

最後に、留学を考えている人はぜひ行くべきだと思う。私は日ごろ一緒にいる友人が留学に行かないという理由で留学参加を迷っていたが今となっては後悔していない。外国に行くことで新たな自分の可能性、方向性を見出し、良い意味でのターニングポイントになると私は思う。

